社会言語科学会　第7回シンポジウム

2025年9月6日（土）@上智大学四谷キャンパス

相互行為におけるからかいの働き

岩田夏穂

（武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所）

トランスクリプトの記号（串田他（2017）

[	複数行の発話の重なりが開始する部分
]	複数行の発話の重なりが解消する部分
(数字)	沈黙の秒数
(.)(..)	ごく短い沈黙とそれより若干長いもの
::	直前の音が伸びている
?	語尾の音が上昇している
.	(ピリオド) 語尾の音の下降による区切りがついている
,	音が少し下降し，弾みがついている．まだ発話が続くように聞こえる．
__	音に強勢がおかれている
° °	°に挟まれた部分の音量が小さい
文字	(イタリック) 音量が大きい
=	2つの発話が密着している
'	音の省略で詰まっているように聞こえる
h (h)	呼気音（笑い）
H	音量の大きい笑い
.h	吸気音
( )	かっこ内の発話が不確か，または聞き取り不能
(( ))	非言語行動や説明
言-	言葉が不完全な状態で途切れている
< >	発話の速度が目立って遅くなる
> <	発話の速度が目立って速くなる
↑	音調が極端に上昇する
↓	音調が極端に上昇する
→	注目する発話

断片1　CEJC K007_017 01:31

恋人同士のKとYがジェンガをしている。この断片の前に、ジェンガの経験があまりないYがジェンガを箱から出す時にブロックをバラバラにしてしまい、経験者のKから「何やってんの」と言われている。断片は、支えを立てて二人でブロックを積み上げている場面である。

01　K:出す時:はさ: このままさ:こうやってしゅーってやればいいだけなんだよ.
02　Y:はい
03　(..)
04→Y:huhuhuhu
05　(..)
06→Y:はい　先生.
07　K:°はい°.
08　Y:°もうずれてない?°
09　K: .hh いいのいい[の
10　Y:　　[いいんだ
11　(7.0) ((Kが積んだジェンガの一角に当ててあった支えを慎重に外す))
12　Y:おお::: .HH
13　(2.5) (((Kがもう一角に支えをあてて揃える))
14　Y:hh((拍手))
15→Y:.hhなんか(.)ソムリエみたいっすね: ジェンガ:(.).h
16→　ジェンガマスターみたいな感じが出てますね:.
17　(..)((ジェンガの山から支えを外す))
18　K:ばかに(h)し(h)て(h)ん(h)の(h)か:: .h
19　Y:してないっすよ: h
20　K:ばかにしてんの:か: はい 最初はぐー

経験者として指示

未熟者として指示に従う
（先生・生徒カテゴリー）

丁寧で緊張感のある動き

専門家・道を極めた人物カテゴリー
敬体の使用によるからかい

Yの15、16行目をまさにからかいとして理解した応答

断片２

三人は短大で同じゼミに所属している。断片は、調査者が依頼してサエが自宅で収録した雑談データからのもので、身長について話している。

01　クミ：160ぐらい.
02　(0.4)
03　サエ：おんなじぐら[い.
04　マリ：　　[おんなじぐらい.
05　クミ：　　[うん
06　サエ：マリコだけちょっとでかいぐらい.
07　(0.2)
08　マリ：1センチね_
09　サエ：↑ポン[ぐらい hh
10　クミ：　　[あ：
11　マリ：そう
12　クミ：うん、ほんとは159.2なの.
13　マリ：あ　そうな[の:?
14　クミ：　　[うん。
15→マリ：サバ読んだな::
16　クミ：[ahahaha
17　マリ：[hahahaha

身長の数値の偽りの告白

否定的な慣用句＋相手の振る舞いを非難する「な」
→形式は非難だが、ここでクミの振る舞いを非難することが合理的になる環境ではない→からかい

断片3　CEJC K003_005_13:54

AとSは友人同士で、Aは公務員試験合格を目指していたが、民間企業の内定が決まったことで、これからどうすべきか悩んでいると話している。Sは、その話を同調的に聞いており、内定がでてなお欲を出して公務員試験合格を目指すことについて懐疑的な意見を述べる。

01 S:欲をだしすぎたってさ::
02 A:う::ん
03 （1.0）
04 A:そうなの　なんかうちにとっての公務員-
05 　公務員になりたいってゆうのは[::
06 S:　[う::ん
07 A:すごく:もしかして:すごい(.)もう:(.)自分の[:
08 S:　[うん
09 A:身の上に合ってない話なのかなと思って,なんか
10 S:ああ　そう思うことあんの?
11 （0.5）
12 A:なんかもう:(.)おまえはそこで(.)[そう .　hhhhh
13 S:　[↑いんだって
14 　言われてる¥みたいに感じる[(h)わ(h)け
15 A:　[huhuhuhu
16 S:[ま(h)じ(h)で:: う:ん
17 A:[もう　おまえ(は)そこで::(.)もう.h そ:のぐらいの
18 　レベルでやっとけ:みたい(h)な(h) huhu
19 S: ゆうお告げにも感じちゃうってこと:?
20 A:.hh [hh　.h.h
21 S:　[¥↑まじ¥か:::
22 A:(いや)　おまえにはもう程遠い世界なん　公務員なん(.)(h)て
23 　ehehe
24 S とりあえずおまえは民間で働いとけみたいな:か[んじに::(.)
25 A:　[.HH　.HH
26 S:[言われてるような気がする::
27 A:[う:::ん　(のような) 気(.)も(.)する hh
28 S:ahaha やべえ
29 A:.HHH hahaha
30 S:そっか:[::
31 A:　[もう なんかもう::でもそれは実際に言われたのは
32 　おばあちゃんにな[んだけどね
33→S:　[aha 言われたん [か::い
34 A:　[う(h)ん
35→S:u-神のお[告げちゃうんか::い
36 A:　[そ(h)う
37 A:おばあちゃんに.

SとAで「お告げ」の内容を共同構築

断片３

31　A：　[もう なんかもう::でもそれは実際に言われたのは
32　おばあちゃんにな[んだけどね
33→S：　[aha 言われたん [か::い
34　A：　[う(h)ん
35→S：u-神のお[告げちゃうんか::い
36　A：　[そ(h)う
37　A：おばあちゃんに.

お告げではなく実在の人間に言われたことを告白

実際に起きたこととは違っていたのかという確認の求めを漫才のツッコミの定型表現と身体動作で提示

Aと共同構築した「お告げ」が実はお告げでなかったことを当のAが知っていた
→気まずさに対する対処が適切な位置

断片4

忠雄と登美は夫婦で春生はその息子。この家族は、データ収録者の香緒里が幼い頃から知っている隣人で、データは、この家族宅を香緒里と母親の貴和子が訪問した場面である。

忠雄の聴力が話題になり、忠雄の聞くことに対する態度について春生と忠雄の言い合いになる。忠雄は、補聴器の調節が難しいこと、音が断片的であること、話し手の話し方によってよくわからないことがあり、聞こえてもわからないと主張する。それに対して、春生は、わからないと諦めて聞こうとしない忠雄の態度に問題があると主張する。香緒里と貴和子は、双方の主張を、笑いと共感を示しながら聞いている。断片は、このやり取りが6分程度続いた後、忠雄が発注した案件で発注先の人が来訪した際に本人が発注先の人と話そうとせず、終始春生を通してやり取りしたと不満を言う部分である。

01　春生：話そうとしないもん. ¥おれ¥と(h)お(h)し(h)て(h)話(h)し(h)てる（もん）.HH
02　貴和：え(h)[え [hhh ¥三人でこう¥ (h)な(h)の(h)::?¥ huhuhu
03　春生：　　[まい-
04　香緒：　　[hhhhh
05　春生：そ-[だから
06　忠雄：　[まあ　聞こうとしない気もあんのよ.確かに.
07→貴和：AHA[HAHAHAHA　>なんだ<
08→香緒：　　[HAHAHAHA .hh 認めちゃっ(h)た(h)よ::
09→　　ha[hahahahahaha
10→貴和：[本音ゆったじゃん 本音ゆったぞ ha[hahaha
11　忠雄：　　[どうせ聞いたってわかんねも:ん:

断片4

これまで強固に主張してきたこと
をあっさり翻して春生に同意

06　忠雄：　[まあ　聞こうとしない気もあんのよ.確かに.

07→貴和：AHA[HAHAHAHA　>なんだ<

08→香緒：　　[HAHAHAHA .hh 認めちゃっ(h)た(h)よ::

09→　　ha[hahahahahaha

10→貴和：　[本音ゆったじゃん 本音ゆったぞ ha[hahaha

失望、落胆、残念さを示す形式
「本音」→これまでの主張は
本当の気持ちではなかった

忠雄の主張を親身に
聞いてきたことが無意味に
なった気まずさに対処する位置

11　忠雄：　　[どうせ聞いたってわかんねも:ん:

「どうせ」→投げやりな態度を示す
形式で「聞いてもわからない」で
はなく「聞こうとしない」ことを明示

参考文献

Boxer, D., & Cortés-Conde, F. (1997). From bonding to biting: Conversational joking and identity display. *Journal of Pragmatics, 27*(3), 275–294.
千々岩宏晃 (2013).「からかい」の相互行為的達成―「あなたに関する知識」を用いた発話の一用法―.『日本語・日本文化研究』, 23, 129–141.
團康晃 (2013). 指導と結びつきうる「からかい」―「いじり」の相互行為分析―.『ソシオロジ』, 58(2), 3–19, 142.
Drew, P. (1987). Po-faced receipts of teases. *Linguistics, 25*(1), 219–253.
初鹿野阿れ・岩田夏穂 (2017).「からかい」連鎖の構造と相互行為における環境. 柳町智治・岡田みさを(編)『インタラクションと学習』(pp.25–42). ひつじ書房.
小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香「『日本語日常会話コーパス』設計と特徴」『国立国語研究所論集』24, pp.153-168, 2023.1.
Haugh, M. (2010). Jocular mockery, (dis)affiliation, and face. *Journal of Pragmatics, 42*(8), 2106–2119.
Haugh, M. (2014). Jocular mockery as interactional practice in everyday Anglo-Australian conversation. *Australian Journal of Linguistics, 34*(1), 76–99.
Haugh, M. (2017). Teasing. In S. Attardo (Ed.), *Handbook of language and humor* (pp. 204–218). London: Routledge.
Haugh, M., & Pillet-Shore, D. (2018). Getting to know you: Teasing as an invitation to intimacy in initial interactions. *Discourse Studies, 20*(2), 246–269.
岩田夏穂 (2024). 雑談におけるトラブルの顕在化と解決の実践―話の展開の失敗に対するからかいに注目して―.『社会言語科学』, 27(1), 155–170.
Johnsen, R. V. (2020). Teasing and policing in a multilingual family: Negotiating and subverting norms and social hierarchies. *Journal of Pragmatics, 158*, 1–12.
Keltner, D., Capps, L., Kring, A. M., Young, R. C., & Heerey, E. A. (2001). Just teasing: A conceptual analysis and empirical review. *Psychological Bulletin, 127*(2), 229–248.
串田秀也・平本毅・林誠 (2017). 会話分析入門 勁草書房.
牧亮太 (2008). からかい行動に関する研究動向と課題.『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 3, 269–276.
西阪仰 (2001).『心と行為―エスノメソドロジーの視点』. 岩波書店.
Norrick, N. R., & Spitz, A. (2008). Humor as a resource for mitigating conflict in interaction. *Journal of Pragmatics, 40*, 1661–1686.
Psathas, G. (1995). *Conversation analysis: The study of talk-in-interaction*. Sage.（北澤裕・小松栄一（訳）(1998).『会話分析の手法』. マルジュ社.）
Schegloff, E. A. (1996). Confirming allusions: Toward an empirical account of action. *American Journal of Sociology, 102*(1), 161–216.（西阪仰（訳）(2018). 仄めかしだったと認めること―行為の経験的説明に向けて―.『会話分析の技法―行為と連鎖の組織』, pp.101–190. 世界思想社.）
呉青青 (2020). 日本語会話における「からかい」の様相―「遊び」としての「からかい」の相互行為分析―. 未刊行博士論文, 九州大学.

データ出典：国立国語研究所 『日本語日常会話コーパス』ver.1.0(2022年3月）